

2017年度 物理学基礎論B

田中 耕一郎

2017.12.4

レポート課題（2017 12/19 締め切り）

（注） 忘れずに学籍番号と名前を書いて提出すること。12/19の授業後もしくは、理学部5号館118号室（いない場合は120号室の秘書さん）に提出すること。

1 ローレンツ力のもとでの運動

定常電磁場、 $\mathbf{E} // y$, $\mathbf{B} // z$ のもとでの荷電粒子の運動を考える。荷電粒子の質量を m 、電荷を q とする。

- (1) 運動方程式を書き下せ。
- (2) $\mathbf{E} = 0$ の場合を考える、 $t = 0$ において原点に粒子があり、初速度が y 方向に v_0 の場合の運動を求めよ。運動の軌跡を図示せよ。
- (3) $\mathbf{E} \neq 0$ 、 $\mathbf{B} \neq 0$ の場合を考える、 $t = 0$ において原点に粒子があり、初速度を 0 とする。この場合の運動を求めよ。また、運動の軌跡を図示し、電場の向きと運動の向きの関係について考察せよ。

(ヒント) 速度を \mathbf{v} とした時、

$$\mathbf{v} = \mathbf{v}' + \frac{\mathbf{E} \times \mathbf{B}}{B^2}$$

と変数変換して、 \mathbf{v}' について解くと簡単である。

(解答例)

(1) 粒子の座標を $\mathbf{r} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$, 速度を $\mathbf{v} = \begin{pmatrix} v_x \\ v_y \\ v_z \end{pmatrix}$ とする。粒子の運動方程式は

$$m\dot{\mathbf{v}} = q(\mathbf{E} + \mathbf{v} \times \mathbf{B})$$

$\mathbf{E} = \begin{pmatrix} 0 \\ E \\ 0 \end{pmatrix}$, $\mathbf{B} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ B \end{pmatrix}$ として、成分ごとに表すと

$$\begin{cases} m\dot{v}_x = qv_y B \\ m\dot{v}_y = q(E - v_x B) \\ m\dot{v}_z = 0 \end{cases}$$

(2) $E = 0$ のとき、(1) より

$$\begin{cases} m\dot{v}_x = qv_y B \\ m\dot{v}_y = -qv_x B \\ m\dot{v}_z = 0 \end{cases}$$

$t = 0$ で $z = 0, v_z = 0$ であるから、第3式より常に $z = 0$ 。よって xy 平面上の運動を考える。

(第一式) $+ i \times$ (第二式) より

$$m(\dot{v}_x + i\dot{v}_y) = -iqB(v_x + iv_y)$$

ここで $w = v_x + iv_y$ とすると

$$m\dot{w} = -iqBw$$

この微分方程式の解は、 $t = 0$ における条件 $w = iv_0$ を考慮すると

$$w = iv_0 \exp(-i\frac{qB}{m}t) = iv_0 \cos(\frac{qB}{m}t) + v_0 \sin(\frac{qB}{m}t)$$

となる。実部、虚部を比較すると

$$\begin{cases} v_x = v_0 \sin(\frac{qB}{m}t) \\ v_y = v_0 \cos(\frac{qB}{m}t) \end{cases}$$

$t = 0$ において $x = 0, y = 0$ であることを考慮して積分すると

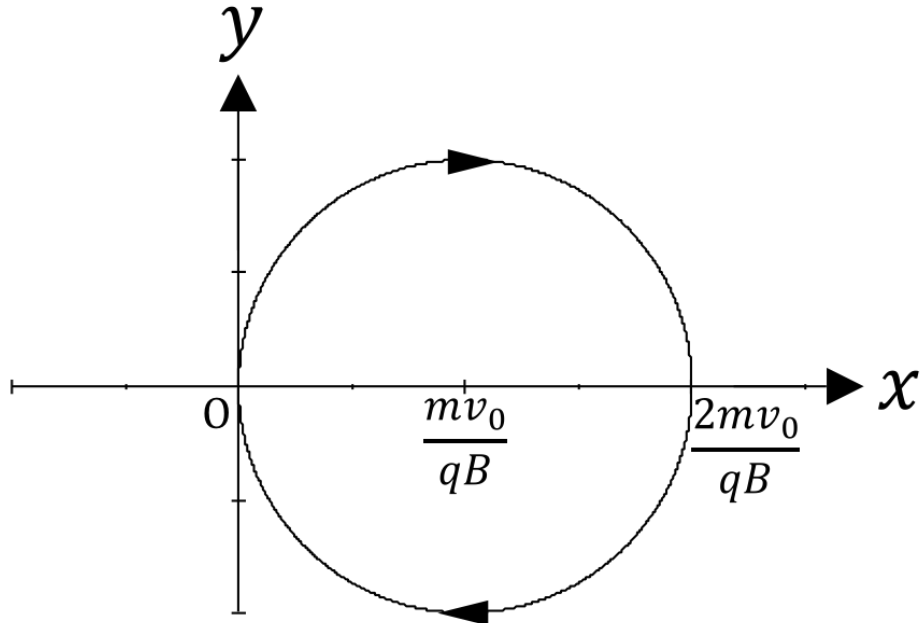
$$\begin{cases} x = \frac{mv_0}{qB}(1 - \cos(\frac{qB}{m}t)) \\ y = \frac{mv_0}{qB} \sin(\frac{qB}{m}t) \end{cases}$$

この x, y は

$$\left(x - \frac{mv_0}{qB}\right)^2 + y^2 = \left(\frac{mv_0}{qB}\right)^2$$

を満たし、求める軌道は中心 $(\frac{mv_0}{qB}, 0)$ 、半径 $\frac{mv_0}{qB}$ の円になる。

以下に $q > 0, B > 0, v_0 > 0$ の際に軌跡を示す。



(3) 運動方程式 $m\dot{\mathbf{v}} = q(\mathbf{E} + \mathbf{v} \times \mathbf{B})$ において

$$\mathbf{v} = \mathbf{v}' + \frac{\mathbf{E} \times \mathbf{B}}{B^2}$$

とすると、 E, B は時間依存しないことから運動方程式は

$$(\text{左辺}) = m\dot{\mathbf{v}} = m\dot{\mathbf{v}}'$$

$$(\text{右辺}) = q\left\{\mathbf{E} + \frac{(\mathbf{E} \times \mathbf{B}) \times \mathbf{B}}{B^2} + \mathbf{v}' \times \mathbf{B}\right\}$$

ここで、任意のベクトル $\mathbf{A}, \mathbf{B}, \mathbf{C}$ についてベクトル三重積の公式

$$\mathbf{A} \times (\mathbf{B} \times \mathbf{C}) = \mathbf{B}(\mathbf{A} \cdot \mathbf{C}) - \mathbf{C}(\mathbf{A} \cdot \mathbf{B})$$

が成り立つので、

$$(\mathbf{E} \times \mathbf{B}) \times \mathbf{B} = -\mathbf{B} \times (\mathbf{E} \times \mathbf{B}) = -EB^2 + \mathbf{B}(\mathbf{B} \cdot \mathbf{E})$$

さらに \mathbf{B} と \mathbf{E} は直交しているので $\mathbf{B} \cdot \mathbf{E} = 0$ であり

$$(\text{右辺}) = q(\mathbf{E} - \mathbf{E} + \mathbf{v}' \times \mathbf{B}) = q\mathbf{v}' \times \mathbf{B}$$

よって運動方程式は

$$m\dot{\mathbf{v}}' = q\mathbf{v}' \times \mathbf{B}$$

これは (2) における運動方程式と同じである。 $t = 0$ で

$$\mathbf{v}' = -\frac{\mathbf{E} \times \mathbf{B}}{B^2} = \begin{pmatrix} -\frac{E}{B} \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

となり、 z 方向の初速度が 0 であるから (2) と同様に xy 平面上での運動を考えれば良い。 $w' = v'_x + iv'_y$ とすると $t = 0$ で $w' = -\frac{E}{B}$ 。 よって、

$$w = -\frac{E}{B} \exp(-i\frac{qB}{m}t) = -\frac{E}{B} \cos(\frac{qB}{m}t) + i\frac{E}{B} \sin(\frac{qB}{m}t)$$

実部と虚部を比較して

$$\begin{cases} v'_x = -\frac{E}{B} \cos(\frac{qB}{m}t) \\ v'_y = \frac{E}{B} \sin(\frac{qB}{m}t) \end{cases}$$

$\mathbf{v} = \mathbf{v}' + \mathbf{E} \times \mathbf{B}/B^2$ より

$$\begin{cases} v_x = \frac{E}{B}(1 - \cos(\frac{qB}{m}t)) \\ v_y = \frac{E}{B} \sin(\frac{qB}{m}t) \end{cases}$$

$t = 0$ で $x = 0, y = 0$ であることを考慮して積分すると

$$\begin{cases} x = \frac{mE}{qB^2}(\frac{qB}{m}t - \sin(\frac{qB}{m}t)) \\ y = \frac{mE}{qB^2}(1 - \cos(\frac{qB}{m}t)) \end{cases}$$

したがって、求める軌道はサイクロイドであり、粒子は電場の向きに対し垂直方向に進む。以下に $q > 0, E > 0, B > 0$ の際の軌跡を示す。

